― 書　評 ―

バードクリニック・プラクティス
―鳥の治療と看護―

著　B. H. コールズ
監訳　桜井富士朗・岡ノ谷一夫
2002年　インターズー　18,500円＋税

ちょっと高い本だが，鳥類学者として，本棚に置いておきたい本である．おそらく多くの会員の方は経験済みだろうが，鳥を研究しているというと，まわりから鳥を持ち込まれることが多々ある．しかし私も含め，多くの学会員は，鳥を研究していると言っても，こと医学的知識に関してはまったくの素人であるから，こんなところに持ちこまれても仕方ないとは思う．けれど，鳥の命を助けたいと持ってくる人の必死な気持ちを考えると，なんとかしてあげたい，けどできないというジレンマに日々立たされているのではないだろうか．

そんなとき，鳥の救護医学について，最低限の知識さえあれば，場合によっては簡単な応急治療で治せる場合もあるし，適切に獣医師の元へ送り届けることも出来る．そんな思いで，ページを繰ってみた．

B. H. Colesは有名な英国の獣医学者である．この本はその著『Avian Medicine and Surgery』の第二版の翻訳である．翻訳に実際に当たったのは，池渕万季，岡哲郎，高橋利奈，山崎由美子の若手の研究者4名，それを動物病院長の桜井富士朗氏と神経行動学者の岡ノ谷一夫氏が監訳している．

本書の構成は，全部で10章からなる．(1)解剖学・生理学の観点から，(2)臨床のポイント，(3)臨床技術の詳細，(4)死後の病理解剖，(5)薬剤投与の実際，(6)麻酔の詳細手順，(7)外科，(8)看護と予後管理，それに昨今，トキやコウノトリの人工飼育に関心が集まっているが，(9)人工繁殖の問題点，(10)放鳥についての考察まで加えられての10章構成である．

これだけではない．圧巻は巻末についている80ページに及ぶ資料である．資料の表には薬剤ごとの処方の一覧，種々の感染症や寄生虫症，それと毒物について，鳥種ごとにその症状，診断法などに関して，細かく記されている．また鳥の体重表や抱卵期間・巣立ちまでの期間などの一覧表は，野外鳥類学者にも十分役に立つ．参考文献や索引も充実している．

日本鳥学会の会員は，プロもアマチュアも含めて，野外鳥類学に興味を持っている人が多いように思う．野外での観察はもちろん重要だが，鳥を飼育したり，鳥体を解剖したりといった経験を持っている人は案外少ない．バンディングもそうなのだが，実際に鳥を手に取ることで，その個体が属する種について，野外での観察だけからは得られない生物学的な情報が得られる．この意味で，鳥の救護は，単なる個人的な感傷を越えて，鳥そのものへの科学的理解に，重要な役割を果たすだろうと思うのである．

上田恵介
（立教大学理学部）